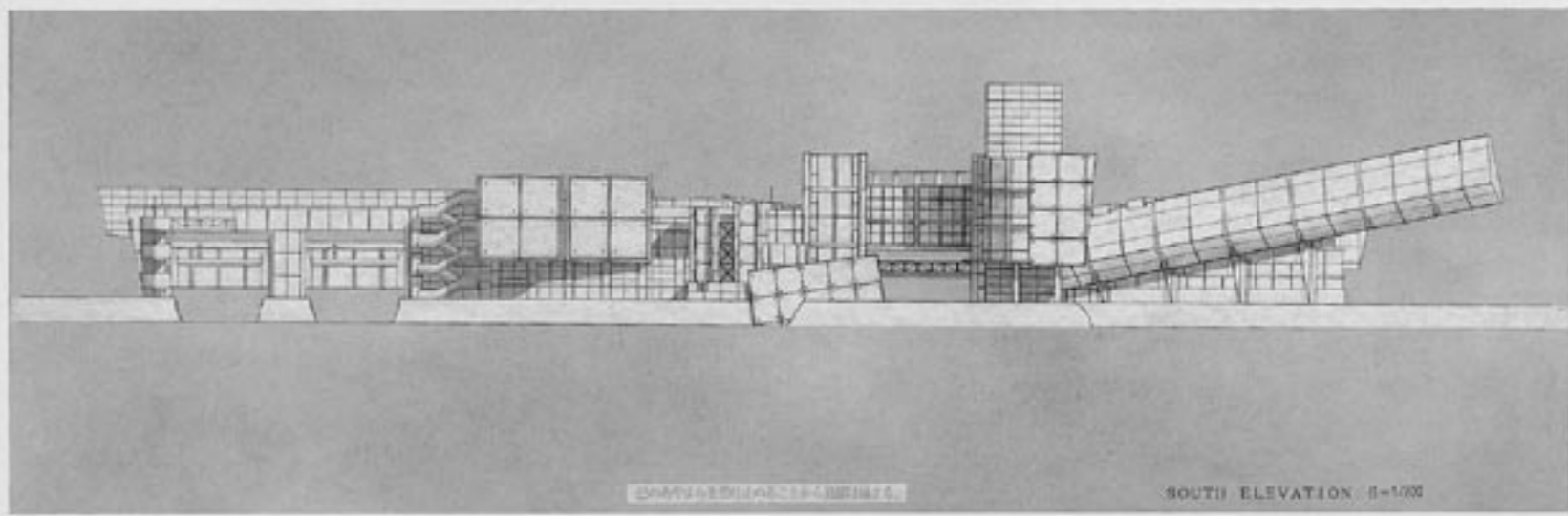
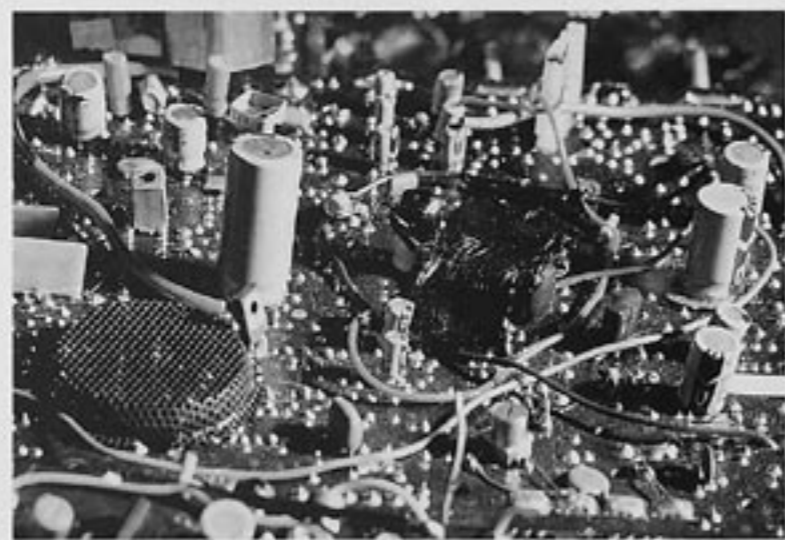
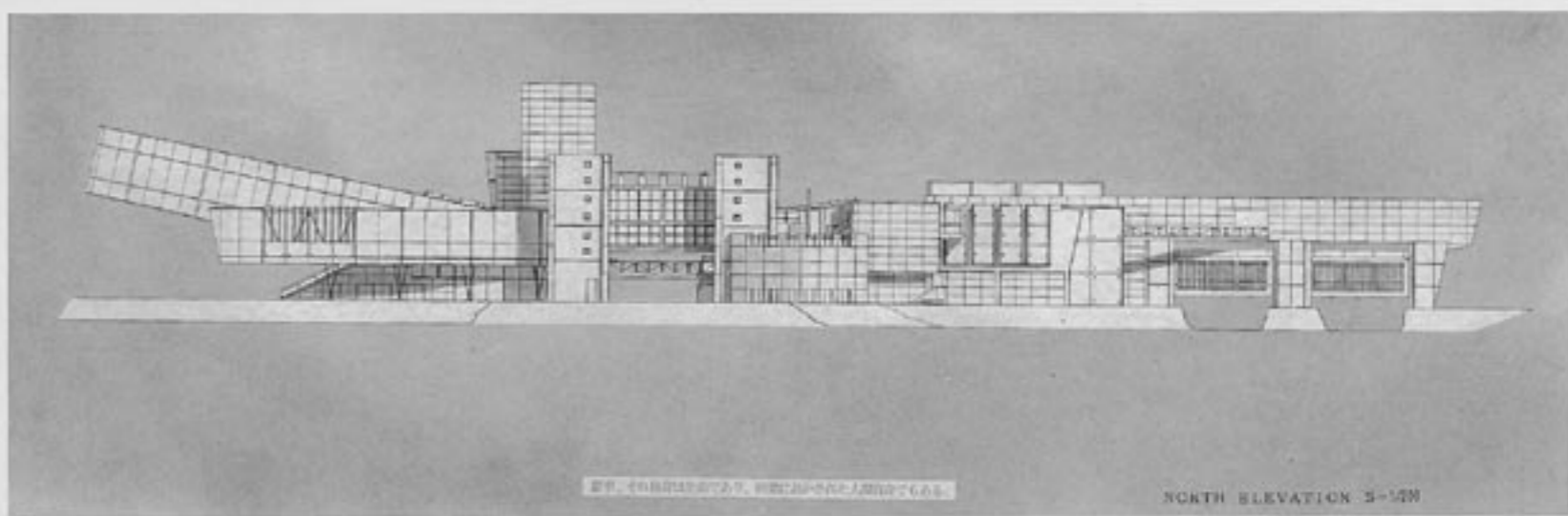
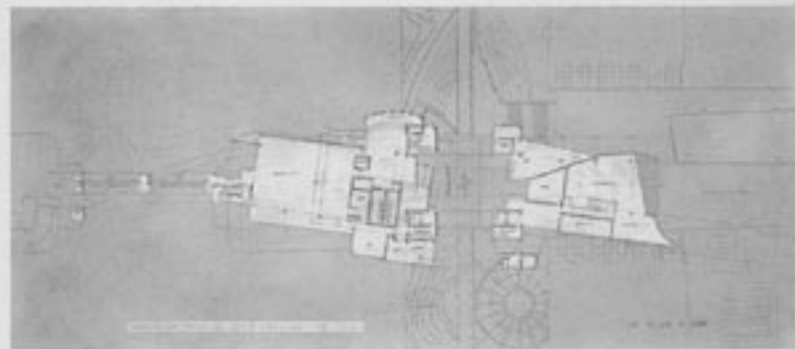
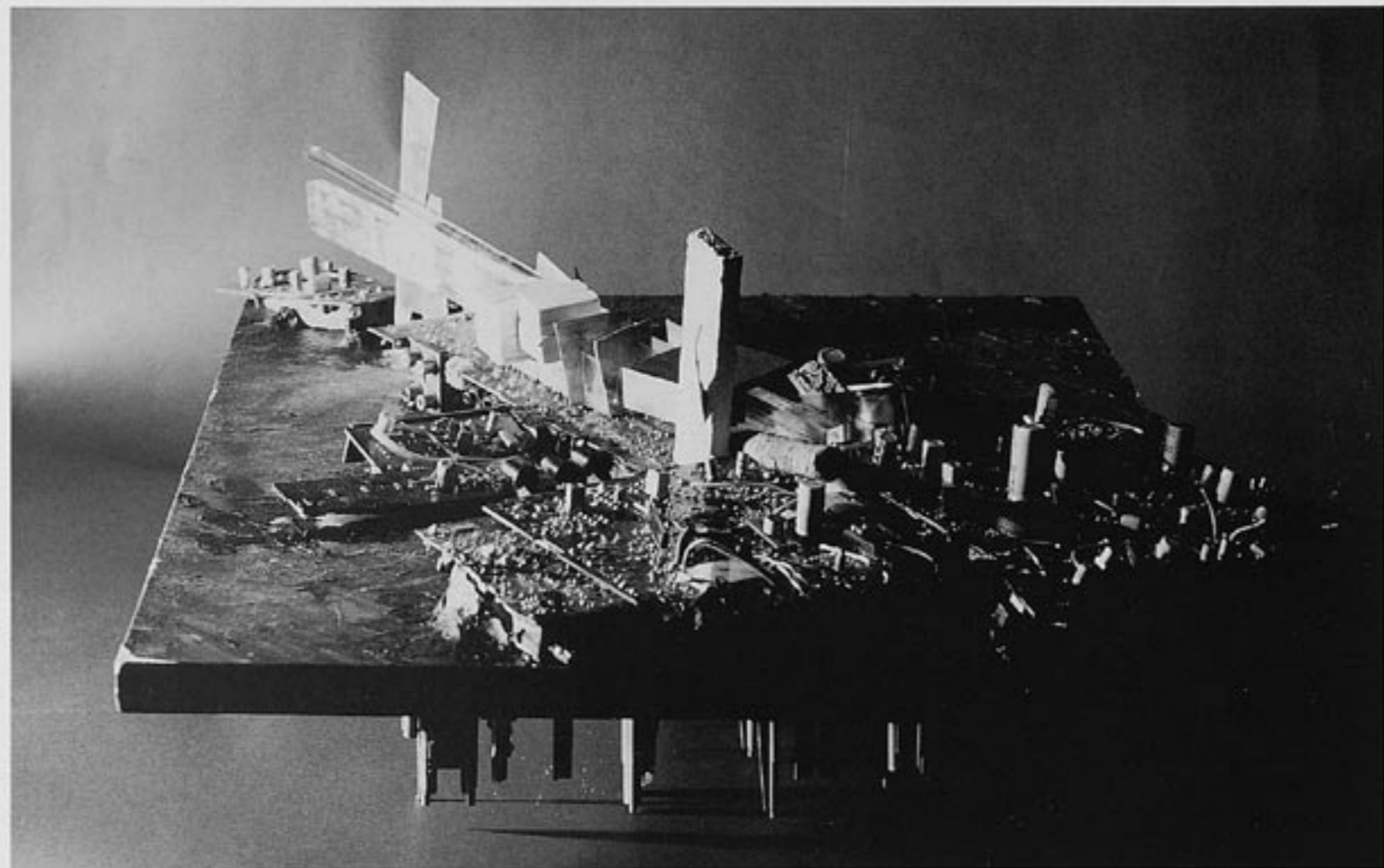


# 都市の結界

福西 浩之



## ■設計主旨

都市の異常なまでの増殖、それは技術革新によって一層拍車をかけられてきた。都市は自然を壊し、生命を壊し、己自身をも壊し続けているのである。

さらに、人間達は己の技術に溺れ、“生きる”ためのエネルギーは無気力化していく。無気力化が物質全てを無機質に変えていくその様は、まさに都市の姿であり、それは人間自身の姿なのである。

人間意識の変化を東京という都市の枠組の中で捉え、水鏡の調査、研究、展示によって人々に警告を与え、新しい方向を示唆する文化センターを提案するものである。

未分化なまま生み出された埋立地は、背後の森と都市の結界となる。この地域において、水門や堤防という要素に対し機能が取り付くことで、建築化された新しい壁が生まれる。それは都市の増殖をせき止め、人間の覚醒を促す。